

【今月の目次】

- 1.山梨大学との連携・教育研究会について
- 2.ICT や情報・教育データの利活用に関する研修（研修番号 600 番台）について
- 3.ICT 活用ワンポイント講座（PC の扱い）
- 4.コラム「校務 DX はじめの一步」



1.山梨大学との連携・教育研究会について

本年度の ypecICT 通信も 3 通目となりました。4 月号において本年度の総合教育センターの情報教育領域に係る研究テーマを「校務 DX」としたことを紹介しました。本研究については、山梨大学附属教育実践総合センターの先生方にアドバイザーとしてサポートをいただいております。

5 月 19 日（月）にアドバイザーの中込司特任教授、稲垣俊介准教授、三井一希准教授と ICT 教育支援センターのメンバーで顔合わせを行いました。その席で、本年度の研究については、学校での校務 DX の取組が手つかずであったり、手探りの状況であることを鑑み、「県内外の校務 DX の実態を把握し、校務 DX が進まない原因と課題を検討するとともに、先進的な取組や好事例の情報を集め、誰もが始めたくなるようなワクワクする校務 DX を探る」というコンセプトのもと、研究を始めていることを説明しました。アドバイザーの先生方からは、「できていない部分」に注目することは良い視点であること、その理由を詳細に分析することで、問題点を浮き彫りにできるのではないかと助言をいただきました。加えて、生成 AI を校務に活用することについても提案をいただくことができました。

今後、情報教育チームの校務 DX に係る研究について、本通信でお伝えしていきたいと考えております。



2. ICT や情報・教育データの利活用に関する研修（研修番号 600 番台）について

夏季休業中の研修において、自己の ICT スキルを上げたい、または現状の情報・教育データを理解し深めていきたい、という方は多いのではないのでしょうか。山梨県総合教育センターでは、本年度、ICT や情報・教育データの利活用に関する研修（研修番号 600 番台）を 13 講座実施する予定です。その中でまだ申込を受付中の研修は、以下の 6 講座です。申し込みは今からでも間に合います！ぜひご検討をお願いします。

601, 8/1 PM 小 プログラミング教育基礎研修会 「Scratch」を活用したプログラム基礎操作

603, 7/31 PM 小中高特 プログラミング教育実践研修会 「MESH」を活用した実践

604, 7/23 PM 小中高特 ICT 活用指導力向上研修会 I Google for Education アプリの基礎的

な活用

607, 7/25 AM 小 ICT 活用推進研修会 I 小学校での ICT を活用した授業実践事例発表と授業づくりの基礎

610, 7/30 AM 小中高特 ICT 活用推進研修会IV【オンライン】 1人1台端末の授業での活用方法・実践事例を学ぶ

622, 10/2 PM 学校における教育活動と著作権に関する研修会【オンライン】



3. ICT 活用ワンポイント講座(PCの扱い)

PCの持ち運びをする機会が日常的に増えてきたのではないのでしょうか。授業や会議など、学校内の持ち運びだけでなく、学校外への出張の際に携帯することもあると思います。持ち運ぶ際には、不注意でPCを壊したりすることがないように、丁寧に扱いましょう。また、アダプタを外したまま何度も長時間使用すると、バッテリーが劣化してきます。PCのバッテリーを長持ちさせるためには、ちょっとしたコツが必要です。持ち運びする際の工夫の一例を挙げてみます。

- ・PCを持ち運ぶ用の手提げ袋を使う・・・校内で落ち運ぶ時に便利です。袋を使わずに片手で持つと、落としてしまう危険性があります。

- ・電源を省電力プランにする・・・長い会議や出張の対策です。バッテリーの劣化も防ぐことができます。ディスプレイの明るさが30%低下したり、緊急の更新プログラムが制限されたりします。省電力プラン設定にしくなくても、自分で照度を落とすことも効果があります。

- ・熱を持たせないような工夫・・・PCが熱を持続けると、パフォーマンスやバッテリー寿命の低下、熱暴走によるデータの消失等に繋がる危険性があります。PCは熱くなりすぎないように工夫して作られていますが、物にかこまれた場所など、PCが熱くなりやすい場所で使用したり、保管しないようにしてください。

いかがでしょうか？普段のちょっとした気遣いをする事で、PCを長持ちさせることができます。なお、業務用端末を学校外に持ち出す際は、各自治体の定めに従って、必要な手続きを忘れずに行いましょう。



4. コラム「校務DX はじめの一步」

「校務DX」という言葉が耳目を集めるようになってきました。「校務DXを始めたい（取り組みたい）気持ちはあるけど、何から始めたらいいか分からない」と感じていませんか？今回は、校務DXの「はじめの一步」について考えてみたいと思います。

まずは、校務DXで何をしたいかを明確にすることです。どんな業務に、どれだけの時間が割かれていたのか、見直してみましょう。とりあえず参考になるからと、周りから紹介されたツールを導入しようと考えがちですが、ツールから始めてしまうと、ツールを導入した人しか、その存在を知らなかった・・・なんてことが起こるかもしれません。誰か一人で取り組むのではなく、学校の先生方が同じ方向を向くことが大切です。それに、一人で考えるより、みんなで考えたほうがアイデアも方法も多く見つかるかもしれません。

そんな時にお勧めしたいことは、「記録に残すこと」です。どんな方法でも構いませんが、記録に残すことで見返したり、参加していなかった人も後で参加したりできます。また、そこに ICT を取り入れることで、時間と場所の制約もなくなり、より参加しやすくなるかもしれません。Microsoft Whiteboard やオンライン付箋などのオンラインブレインストーミングツールを活用し、まずは先生方が授業以外の様々な場面で ICT を活用することから始めてみてはどうでしょうか。



おまけ いまさら聞けない用語解説

今月の用語「プロンプト」

プロンプトとは、IT 分野では古くからある用語で「促す」「指示する」といった意味を持つ言葉です。生成 AI の領域では、AI に対して与える「指示や質問」を指します。プロンプトはプログラミング言語などの専門的な記法ではなく、日本語や英語などの自然言語で入力する方法が一般的です。

ICT 教育支援センターでは、各校で取り組んでいることや取り組もうとしていることへの支援に加えて、ICT 機器やソフトウェア、ネットワーク等に関する相談支援や学校訪問など随時対応しております。校内研修や研究会において、ICT 教育支援センターを活用していただきたいと思います。お気軽にご相談ください。

山梨県総合教育センター ICT 教育支援センター

〒406-0801 山梨県笛吹市御坂町成田 1456

TEL:055-262-5508（直） /FAX:055-262-5572

お問い合わせは [こちらへ](https://forms.office.com/r/wyuB8BRNg2) <https://forms.office.com/r/wyuB8BRNg2>

バックナンバーは [こちら](https://www.ypec.ed.jp/?page_id=6492) https://www.ypec.ed.jp/?page_id=6492